

子ども支援レポート⑦

ヤオコーでは、2020年9月から、埼玉県、埼玉県社会福祉協議会、アサヒロジスティクス株式会社さまのご協力のもと、埼玉県下の生活にお困りの子育て世帯を対象にしたお米の支援を開始しました。2021年3月に「一般財団法人 ヤオコー子ども支援財団」を設立し、2021年9月より財団でこの活動を引継ぎました。2023年3月からは公益財団法人となりましたが、これまで同様、毎月1回埼玉県福祉部および埼玉県社会福祉協議会のご協力のもと、埼玉県内にあるフードパントリーと子ども食堂へ、お米をお届けしております。

	お米の支援	配布エリア	個数	キログラム数	子ども食堂	フードパントリー	配布団体の合計
24	2023年9月	鶴ヶ島市	100	500	20	13	33
25	2023年10月	川口市	100	500	16	9	25
26	2023年11月	加須市	100	500	3	15	18
27	2023年12月	熊谷市	100	500	10	8	18
28	2024年1月	さいたま市	100	500	10	7	17
29	2024年2月	越谷市	100	500	13	12	25



2023年9月 鶴ヶ島エリア 100袋 500キロ

まだまだ残暑が厳しい中での荷下ろしとなりました。

拠点となったカローレ鶴ヶ島は今回で4回目になります。駐車スペースが狭く、A角の立地でかつ信号のそばとなり、トラックの搬入にはボランティアのみなさまとの連携が必要になります。次回以降もスムーズな荷下ろしができるよう、みなさまと工夫していきたいと思ひます。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

毎月約100袋のお米を寄付しています！

お米のお届けはアサヒロジスティクス様にご協力を頂いています

2023年10月 川口エリア 100袋 500キロ

今回はトラックの到着時間が早く、我々が現地についたころにはすでに荷受け・分配が終了していました。ボランティアの方に作業の流れが浸透しており、無事に荷下ろしが終わって良かったです。表の道路が工事中だったことと、駐車場のスペースの関係で、トラックの出口がさがみ典礼さんの裏道からになったそうです。記録として写真が残せなかったのが心残りです。



2023年11月 加須エリア 100袋 500キロ

直前まで雨が降っていましたが、トラック到着時には止んでおり無事荷下ろしを終えることができました。トラック到着時には別の荷下ろしをしていたボランティアの方の車を移動していただく事になり、トラックが道路で数分待つ時間ができてしまいましたが、幸い交通量も少なく特に問題ありませんでした。

今回は団体さん毎の仕分けは数が大変だったようでしたが、ボランティアの方中心にスムーズに作業が進められていました。



2023年12月 熊谷エリア 100袋 500キロ

トラックの到着が予定より30分ほど早く、団体のみなさまもまだ集合されていない中での荷下ろしでした。いつもはブルーシートに広げて荷下ろししていますが、今回は雨が降りそうだったため、車に直接乗せ換えることになりました。早めに到着されていたボランティアのみなさまとリレー形式でお米を運び、スムーズに終わることができました。今回はいつもお米を届けてくださっているドライバーの市川さんも一緒に記念撮影できました。



2024年1月 浦和エリア 100袋 500キ。

トラックの到着が早く、子ども食堂のボランティアさんと一緒に荷下ろししました。埼玉県福祉部少子化政策のご担当者の方もいらしており、フードパントリー分は到着を待ち、対応していただきました。自衛隊の方が支援物資を交互に向かい合わせに並び千鳥リレーで運んでいるのを見ましたが、実際にやってみると身体の負担が軽減され、スムーズに運べることが分かりました。

さいたま子ども食堂ネットワークの代表の方から「毎年発行している冊子に、アサヒロジスティクスさんとヤオコーさんのコラボ写真を掲載したい。企業同士がタッグを組んで、支援をしてくれていることをもっと知ってもらいたい。」というお話がありました。



2024年2月 越谷エリア 100袋 500キ。

今回の荷下ろし拠点は昨年6月にもお届けしている越谷市流通団地でした。ボランティアのみなさまも慣れた様子で、とてもスムーズに作業が進みました。また本日はお米の配送をさせていただいているアサヒロジスティクス㈱さまから広報担当の方もいらしており、現場の様子を撮影されていました。

埼玉フードパントリーネットワークの方は「お米が一番必要な食材なので本当に助かっている。商品の受け渡しの部分はフォーカスされることが多いが、それ以外にも大変な部分はたくさんあるので、見えないところも知ってもらえたら嬉しい。」とお話されていました。